

# 葛西工高でキャラバン開催

## 建築科の2年生39人が参加

協報 戦略的推進 戦推

建設産業戦略的広報推進協議会は、4月27日に東京都立葛西工業高等学校で、若者に建設産業の魅力と入職促進に資する情報を直接発信する「キャラバン」を実施した。

当日は、建築科の2年生39人（うち女性3人）が参加。松縄建設業振興基金主任が、建設産業の現状や建設工事に多くの人が関わることを説明したのち、今回のキャラバンの講師を務める中屋建二Jマーケティ

ング本部長が入職したきっかけ、やりがい、建設工事の流れ、職種等を説明した。引き続き行われた質問タイムでは、経理担当の若手女性職員も加わり、参加者からの質問に回答した。写真。

同協議会は、建設業界・外部有識者・行政が個々の立場を越え一体となり、若者の入職促進に資する情報発信や、建設産業のイメージアップに資するモデル的な広報活動を試行的に実施。その



一環として、14年度から建設業界・行政が一体となって小中高校を訪問し、生徒に建設業の社会的な役割やものづくりの素晴らしさを直接語りかけ、交流するプログラム（キャラバン）をスタートさせている。16年度最初の開催で、工業高校で

は通算6校目、小・中学校を含めると通算9校目となる。今年度5回の開催を予定している。

### 93%がキャラバン評価

キャラバン実施後のアンケートでは、93%がキャラバンを評価（「とても良かった」「良かった」と回答）し、内容について65%が「ちょうど良かった」とした。建設業のイメージについては87%が「良い」とし、理由に、達成感を味わえる、見ていてかっこいい、話を聞いていてとても良かった、働きがいがある等の

回答をはじめ、父親や兄など身近な人が業界に携わっていることあげる意見も多かった。

また、これを受け、建設業で働きたいかとの問いに、68%が働きたいと回答し、理由として、父親の影響、子供の頃から興味等が多くあがったほか、今回のキャラバンの影響をあげる意見もあった。このほか、建設業が地域を盛り上げる事業に繋がるのはなぜか（仕事は）どれくらいきついのか、といった業界に対する疑問等も寄せられた。